

検査値と画像データから読み解く 薬効・副作用評価マニュアル

吉村知哲，岩本卓也(編)

徳島大教授・臨床薬理学/徳島大病院薬剤部長

石澤啓介

病棟で輝く薬剤師になるための 必携マニュアル本

薬剤師が患者の薬物療法にかかわるには、客観的指標に基づいた薬の治療効果や副作用を評価する必要がある。特に、病棟においてチーム医療の一員として薬剤業務に従事する際は、臨床検査値や画像データを読み解くスキルが求められる。本書を白衣のポケットに忍ばせておけば、臨床検査・画像検査を活用した薬効・副作用の評価の心強い味方になるはず。現在あるいはこれから病棟で活躍する薬剤師にとって、頼りがいのある一冊となるに違いない。

本書は、前半は薬効別に分類した代表的な薬の治療効果と副作用の評価について、必要な臨床所見や客観的データを含む種々の確認項目が簡潔にまとめられている。また、薬剤選択のチェックポイントを図表化し、治療開始から評価・介入に至る一連の流れがフローチャートで示されていることで、実践的かつわかりやすい内容となっている。さらに薬剤管理指導記録の記載のポイントに関しても解説しており、病棟で薬剤管理指導を行う際の記録作成の参考となるマニュアルである。

後半は、臨床検査・画像検査の評価ポイントを的確にまとめている。各臨床検査の基準値はもちろん、異常値を示したときに考慮すべき疾患が列挙されていることも、薬剤師にとって魅力ある内容となっている。また、薬剤師があまりなじみのない、さまざまな画像検査の目的やチェックポイントに関して簡潔にまとめられており、医局カンファレンスにおける画像所見を理解する上でも大いに役立つ。

本書は薬の治療効果と副作用発現の評価につい

て、検査・薬効・副作用をオールインワンにまとめた薬剤師にとって魅力ある必携のバイブルであることに間違いない。加えて、薬物療法に携わる研修医、若手医師、看護師も活用できる充実した内容となっている。近年は医療機関から保険薬局に検査値情報を提供しているケースも増えてきており、保険薬局薬剤師にとっても本書は価値ある一冊となるだろう。



●B6 変型/頁 560/2022 年
定価：4,400 円
(本体 4,000 円 + 税 10%)
[ISBN978-4-260-04881-1]
医学書院 刊